

2024年度事業報告

(JKA競輪補助事業)

事業の目的

全国の刑務所、少年院等に収容されている人の立ち直り支援のためのボランティア活動を行っている篤志面接委員に対して、その活動に必要な知識、技術の付与や、篤志面接委員相互の情報や意見の交換を通して、活動の一層の向上を図る研修事業である。

1 実施内容

① 第37回全国篤志面接委員大会

ア 実施日

2024年10月9日(水) 午後1時から午後5時40分

イ 会場

東京都千代田区霞が関1-1-1

中央合同庁舎第6号館A棟 法務省地下大会議室

ウ 参加者

計153名(篤志面接委員117名 その他関係者36名)

エ 目的

全国の篤志面接委員が一堂に会し、篤志面接活動の内容の充実と効果的な指導方法について研究討議する。

オ 内容

(ア)基調講演

演題 「社会復帰支援の現状と展望」

講師 法務省矯正局更生支援管理官 吉野 智 氏

(イ)研究発表

議題 「時代に応じた篤志面接活動の意義と役割の再発見 !!」

サブテーマ ～これからの社会とのつながりを求めて～

・「社会復帰後を予見した面接活動のあり方 ― 灯々代々 ―」

山形刑務所篤志面接委員 深瀬 俊路

・「女の園で育った私が刑務所で教えられること」

徳島刑務所篤志面接委員 桑内 瑠美子

・「刑事法研究者と篤志面接活動」

加古川学園篤志面接委員 道谷 卓

・「仏作って魂入れる ～私の面接活動～」

山少年院篤志面接委員 松本 宣秀

(ウ)意見発表

議題「これからの社会とのつながりを求めて」

進行 全国篤志面接委員連盟理事 阿部 憲仁

② 令和6年度篤志面接委員初任者・リフレッシュ研修会

ア 実施日

2024年12月16日(月)午後1時から午後6時30分

2024年12月17日(火)午前9時30分から午後0時15分

イ 会場

東京都千代田区霞が関1-1-1

中央合同庁舎第6号館A棟 法務省地下大会議室東

ウ 参加者

計73名(篤志面接委員61名 その他関係者12名)

エ 目的

委嘱後の期間が比較的短い篤志面接委員に対しては、篤志面接活動の実務に必要な基本的な知識、技術等を付与し、面接活動に伴う不安や疑問を可能な限り解消してその活動意欲を喚起すること、一定年数以上の活動経験豊かな篤志面接委員に対しては、委員としての活動を振り返り活動の原点に立ち返ってその意義と役割を再確認して活動意欲を一層高めることを目的とする。

オ 内容

(ア)1日目

講話Ⅰ 「矯正行政と篤志面接活動の意義」～刑事施設を中心に～

講師 法務省矯正局成人矯正課企画官 朝比奈牧子 氏

講話Ⅱ 「矯正行政と篤志面接活動の意義」～少年院を中心に～

講師 法務省矯正局少年矯正課企画官 谷村 昌昭 氏

講話Ⅲ 「篤志面接活動の歴史・制度と現在の課題」

講師 全国篤志面接委員連盟 理事長 松田美智子

班別討議Ⅰ 両研修の参加者が下記の活動領域別7班に分かれて討議

A班（釈放前指導）

B班（保護相談等）

C班（精神的煩悶・個別相談）

D班（精神的煩悶・個別相談）

E班（各種教養指導等）

F班（各種教養指導等）

講話Ⅳ 「面接指導技術」

講師 長野大学社会福祉学部教授 小林 万洋 氏

(イ) 2日目

講話Ⅴ 「篤志面接活動を経験して」

講師 全国篤志面接委員連盟常任理事 小林 順吾

講師 全国篤志面接委員連盟常任理事 郡嶋かおる

班別討議Ⅱ 初任者研修者は前日と同じ班で、リフレッシュ研修者はそれのみで別に1班を編成して討議

③ 第36回札幌矯正管区管内篤志面接委員研修帯広大会

ア 実施日

2024年7月18日（木）午後2時45分から午後5時

2024年7月19日（金）午前11時40分まで午前11時40分

イ 会場

帯広市西2条南13丁目1番地

ホテル日航ノースランド帯広 ノースランドホール

ウ 参加者

計90名（篤志面接委員44名 その他関係者46名）

エ 目的

札幌矯正管区管内の篤志面接委員に対する表彰、著名人による講演及び篤志面接活動における研究発表

オ 内容

(ア) 講演

演題「野男のうた」

講師 歌人 時田 則雄 氏

(イ) 研究発表

・「樺戸監獄物故者追悼式に参列して」

発表者 月形刑務所篤志面接委員 櫻庭 誠二

助言者 月形刑務所教育主任 永野 選人 氏

・「この時を共に進もう」

発表者 釧路刑務支所篤志面接委員 最上 洋一

助言者 釧路刑務支所第三統括 神林 邦英 氏

・「活動を通して思うこと」

発表者 函館少年刑務所篤志面接委員 原 一彰

助言者 函館少年刑務所厚生主任 荒川 博 氏

④ 第66回仙台矯正管区管内篤志面接委員研修宮城大会

ア 実施日

2024年7月12日（金）午前10時から午後3時10分

イ 会場

仙台市宮城野区榴岡5-11-1

仙台サンプラザ 3階クリスタルルーム及び宮城野

ウ 参加者

計93名（篤志面接委員45名 その他関係者48名）

エ 目的

仙台矯正管区管内の篤志面接委員が一堂に会し、矯正施設における篤志面接活動の充実と効果的な運営について研究討議する。

オ 内容

(ア)講演

演題「受刑者を親にもつ子どもたち」

講師 琉球大学法科大学院教授 矢野 恵美 氏

(イ)研究討議

討議題「人とつながる力を育む篤志面接活動」

活動内容を踏まえて事前に編成した小グループ(6ないし7名程度)において、運営施設の委員が進行係を担当し、自由に意見交換した。

(ウ)全体協議会

研究討議における結果を各グループの進行係が順次発表したのち、会長による総括を行い、全体で共有した。

⑤ 第66回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

ア 実施日

2024年12月18日（水）午前11時から午後4時15分

イ 会場

埼玉県さいたま市中央区新都心2-1

さいたま新都心合同庁舎2号館 5階共用大会議室501他

ウ 参加者

計146名（篤志面接委員81名 その他関係者65名）

エ 目的

東京矯正管区管内の矯正施設で活動する篤志面接委員が一堂に会し、矯正施設の矯正処遇や被収容者についての理解を深め、篤志面接活動の充実化と効果的な指導方法等について研究討議する。

オ 内容

(ア) 講演

演題「国際医療協力を経験した矯正医官として思うこと」

講師 多摩少年院医務課長 小林 誠 氏

(イ) 個別発表

グループ①

「家族に問題を抱える被収容者への援助について」

グループ②

「対人関係に問題を抱える被収容者への援助について」

グループ③

「薬物・アルコール・ギャンブル等に依存する被収容者の援助について」

グループ④

「面接時に心掛けていること・工夫していること（刑事施設）」

グループ⑤

「面接時に心掛けていること・工夫していること（少年院）」

グループ⑥

「集団指導時に心掛けていること・工夫していること」

グループ⑦

「篤志面接委員活動で苦勞していること・難しいと感じること」

グループ⑧

「これからの篤志面接委員活動の在り方について」

グループ⑨

「拘禁刑導入と篤志面接委員の役割について」

グループ⑩

「当日の講演を聞いて思うこと」

⑥ 令和6年度名古屋矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

ア 実施日

2024年10月30日（水）午後1時30分から午後4時45分

イ 会場

名古屋市千種区覚王山通8-18

ホテル ルブラ王山 2階飛翔の間

ウ 参加者

計113名（篤志面接委員57名 その他関係者56名）

エ 目的

管内の篤志面接委員が一堂に会し、大会テーマ（「時代に応じた篤志面接活動の意義と役割の再発見!!—これからの社会とのつながりを求めて—」）のもとに、篤志面接活動の在り方とその充実方策を研究討議し、併せて篤志面接委員協議会と矯正施設の連携強化を図ることを目的とする。

オ 内容

（ア）講演

演題「対話の力」

講師 京都橘大学総合心理学部准教授 ジェイムス 朋子氏

（イ）意見交換会

・「私の課題と願い」

発表者 名古屋刑務所篤志面接委員 前田 健雄

・「少年とともに歩む」

発表者 瀬戸少年院篤志面接委員 藤井 千龍

・「テーマから現在考えられること」

発表者 福井刑務所篤志面接委員 牧野 豊丸

⑦ 令和6年度大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会

ア 実施日

2024年 9月27日（金）午後1時から午後5時

イ 会場

兵庫県明石市松の内2-2

ホテルキャッスルプラザ 3階祥福寿

ウ 参加者

計176名（篤志面接委員90名 その他関係者86名）

エ 目的

平成28年に再犯の防止等の推進に関する法律が制定され、令和3年には少年法等の一部を改正する法律が成立し、18歳、19歳の少年は「特定少年」として一定の罪を犯した場合には、原則として刑事裁判に付されることが定められた。

令和4年には刑法等の一部を改正する法律が成立し、令和5年12月から、犯罪被害者等の心情等を考慮した処遇を行うこととなり、令和7年6月からは懲役刑、禁錮刑という刑罰がなくなり、拘禁刑に一本化されることが定められた。

また、既に平成17年に制定された刑事収容施設法では、第103条第1項において「社会生活に適応するのに必要な知識及び生活態度を習得させるため必要な指導」を行うことが規定されている。

このように篤志面接委員活動を取り巻く状況が変化していく中で、「変化する矯正の中での篤志面接委員活動～社会とつながりを目指して～」をテーマとして、今後の私たちの篤志面接委員活動はどのようにあるべきかを研究・討議することとした。

オ 内容

(ア) 講演

演題「孤独の解消と自己実現」

講師 一般財団法人ワンネス財団共同代表 伊藤 宏基 氏

同共同代表 三宅 隆之 氏

(イ) 第1部 体験発表

「これまで（今現在）の篤志面接委員活動」

・「仮釈放前の指導」

京都刑務所篤志面接委員 川上 直子

・「精油を用いたセルフコントロールの試み」

西日本成人矯正医療センター篤志面接委員 岸本 光子

・「寄り添う、ということ」

加古川学園篤志面接委員 潮崎 孝代

・「個人面接から見えてくること」

奈良少年院篤志面接委員 脇屋 大樹

(ウ)第2部 パネルディスカッション

「これからの篤志面接委員活動」

進行／コーディネーター

大阪矯正管区管内篤志面接委員協議会副会長 大川 哲次

パネリスト 上記体験発表者

ゲストコメンテーター

一般財団法人ワンネス財団共同代表 伊藤 宏基 氏

⑧ 第37回広島矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

ア 実施日

2024年10月24日(木)午後1時から午後5時

イ 会場

広島県広島市中区中町7-20

ANAクラウンプラザホテル広島 3階アカシアの間

ウ 参加者

計104名(篤志面接委員51名 その他関係者53名)

エ 目的

広島矯正管区管内の篤志面接委員が一堂に会し、矯正施設における篤志面接活動の充実と効果的な指導方法について研究討議を行う。

オ 内容

(ア)個別発表

・演題「受刑者とともに座禅をして」

発表者 山口刑務所篤志面接委員 市原 晃靖

・演題「受刑者とともに座禅をして」

発表者 広島少年院篤志面接委員 太田 美鈴

(イ)講演

演題「野球人生から学ぶ～人を育て組織を活かすマネジメント～」

講師 元広島東洋カープ監督 野村 謙二郎 氏

⑨ 第63回高松矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

ア 実施日

2024年11月20日（水）午後1時15分から午後4時40分

イ 会場

高知市高須砂地155番地

セリーズ

ウ 参加者

計50名（篤志面接委員24名 その他関係者26名）

エ 目的

篤志面接委員は、被收容者の再犯・再非行防止を目的とする矯正指導や矯正教育などに対し重要な役割を担っていることを踏まえ、社会と被收容者を結ぶ架け橋としての役割を達成するため、高松矯正管区管内の篤志面接委員間の相互理解及び情報交換並びに篤志面接委員個々の指導力の向上を目的とする。

オ 内容

(ア) 講演

演題「好きな事をしていますか」

講師 北川村 モネの庭 マルモットン 前庭園管理責任者 川上 裕 氏

(イ) 研究発表

・「囲碁将棋の活動を通して」

発表者 徳島刑務所篤志面接委員 渡部 俊雄

共同研究者 徳島刑務所篤志面接委員 宮本 武治

助言者 徳島刑務所統括矯正処遇官 北野 一成 氏

・「篤志面接委員活動を通して感じること」

発表者 四国少年院篤志面接委員 香川 史子

助言者 四国少年院統括専門官 春田 勝己 氏

⑩ 令和6年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会宮崎大会

ア 実施日

2024年11月13日（水）午後1時から午後5時

2024年11月14日（木）午前9時から午前11時20分

イ 会場

宮崎市松山1丁目1番1号

宮崎観光ホテル 3階緋碧耀

ウ 参加者

計 119名（篤志面接委員 53名 その他関係者 66名）

エ 目的

矯正施設における篤志面接活動の充実強化のために、管内の篤志面接委員が一堂に会し、篤志面接委員相互の活動状況の共有及び活動に資する講演を聴講することにより、篤志面接委員の指導技術の向上及び見識を深めることを目的とする。

オ 内容

(ア)講演

演題 「安井息軒の受刑者更生観について」

講師 国立大学法人宮崎大学特別准教授 青山 大介氏 氏

(イ)分科会 刑事施設と少年施設共同で、6つのグループに分かれて研究討議

・ 第1部（共通テーマ）

「今までの人生における成功や失敗を通しての学びや気づき」

・ 第2部（選択テーマ）

「親として社会人として人を育てる時の心構え」

「相手の気持ちに寄り添うために工夫していること」

「『聞く』と『聴く』の違いについて」

2 本事業の成果

① 第37回全国篤志面接委員大会

矯正局更生支援管理官である吉野智氏による基調講演「社会復帰支援の現状と展望」においては、第二次再犯防止推進計画の下で進められている様々な施策の説明がなされ、参加者にとっては農福（のうふく）連携などの最新の情報に接する貴重な機会となった。また、現在矯正施設で実施されている社会復帰支援の諸施策について豊富な資料が提供され、大変参考になったとの意見が多かった。令和7年6月から、これまでの懲役刑・禁錮刑に代わって拘禁刑が導入されることに伴い、矯正を取り巻く環境が大きく変化していく中、篤志面接委員として矯正行政の現状と課題に対する理解をより一層深めることができた。

また、4人の委員による研究発表は、平素の活動経験を踏まえた思いが語られ各委員の専門性の高さや活動に寄せる熱意が十分に伝わってくる発表であった。

意見交換については、参加者から事前に提出された意見の要旨集と司会の適切な進行によって多くの委員から発言があり、今までにない活発な意見交換がなされた。

研修の進め方や時間配分の見直しなどの課題はあるが、被収容者の改善更生と円滑な社会復帰を図る上で、篤志面接委員がどのような役割を果たすことができるかという課題について、有意義な議論を展開することができた。多くの参加者の今後の活動意欲を高める効果が認められた研修となったことから、今後も対面による参加型の研修を継続していくことが適当であり、本大会は、成功裏に終了したものと結論に達した。

② 令和6年度篤志面接委員初任者・リフレッシュ研修会

講話と班別討議を2日間で行う2部構成となっており、いずれも参加者の研修ニーズに応えた内容であり、おおむね好評であったが、講話での情報量が多く消化しきれないとする意見など、改善点も認められた。昨年度のアンケート結果を踏まえ、今年度は机を使わずに研修会を実施したが、参加者同士の距離が近くなったことで、活発な意見交換を引き出すことができたと思料される。アンケート結果から多くの参加者の活動意欲を高める研修となったと認められた。

今年度は新しい試みを含む研修会となったが、今後もこうした形の参加型の研修を継続して行くことが適当であり、本会は、成功裏に終了したものと結論に達した。

アンケート結果や評価会議の意見等を踏まえ、より充実した効果的な研修会を開催することができるよう、今後の実施方法について検討を重ねていきたい。

③ 第36回札幌矯正管区管内篤志面接委員研修帯広大会

本研修大会の実施を通じて、参加者相互の親睦が深まったほか、参加した篤志面接委員それぞれが見識を深め、指導技能の向上につなげることができ、有意義な研修大会であった。

④ 第66回仙台矯正管区管内面接委員研修宮城大会

本研修大会は、管内の篤志面接委員が一堂に会する機会である。互いの活動状況や活動に資する講演を聴講し、研究討議では活発な意見交換をすることによって、各委員の指導技能の向上及び見識を深めることができ、有意義な研修大会であった。

⑤ 第66回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

講演の実施前に、東京矯正管区長及び当管区管内篤志面接委員協議会会長による感謝状の贈呈式が行われた。

講演では、多摩少年院医務課長の小林誠氏による、経験に基づく国際医療協力と矯正医療についての講話がなされた。医療や国際協力といった篤志面接委員にとって未知の分野についての話ではあったが、知見が広がるとともに、そこに篤志面接活動に通じる思想や志があることに共感し、今後の活動への意欲を高める効果があったと

思料される。

自由討論会では、篤志面接委員 8～10 名程度ずつ 10 グループに分け、事前に希望を聴取したテーマについて討議した。また、各グループに施設職員 3 名に記録係及びアドバイザーとして参加してもらった。互いに交流のない委員同士が情報交換できる貴重な機会であり、自身の活動の参考となる知識や技術について学ぶとともに、篤志面接委員として責任の自覚や意欲の喚起につながった。また、施設職員が参加することで、施設職員からの視点を認識した上での連携を模索するきっかけともなった。

⑥ 令和 6 年度名古屋矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

京都橘大学准教授であるジェイムス朋子氏を講師に迎え、「対話の力」というテーマで講演を行い、研究発表及び意見交換では 3 名の篤志面接委員の発表の後、協議会参加者と活発な意見交換が行われ篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができ、有意義な研修大会であった。

⑦ 令和 6 年度大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会

・ 講演について

精神疾患や様々な障害、各種依存症、触法者の心身の回復とその後の成長を支援する専門機関であり、生き甲斐を持って「人生を生き直すことのできる回復と成長」をサポートしている一般財団法人ワンネス財団共同代表の伊藤宏基氏、三宅隆之氏のお二人を講師としてお招きし、「孤独の解消と自己実現」を演題として、ウェルビーイングに着目した独自のカリキュラムとコンセプトで、2005 年から現在に至るまでの活動内容、再犯を減らし被害者を減らす、「孤独の解消と自己実現」の応援及び罪に問われた人たちが財団の職員として働く「生きがいをもった生きなおし」の実践について話を聞くことができ、大変参考となった。

・ 研修会第 1 部 体験発表

「これまで（今現在）の篤志面接委員活動」と題して、京都刑務所所属の川上委員からは、「仮釈放前の指導」と題して保護司として 34 年活動された経験を基にした指導について、西日本成人矯正医療センター所属の岸本委員からは、「精油を用いたセルフコントロールの試み」と題して、社団法人日本アロマ環境協会認定インストラクター・セラピストとしての経験を生かした新たな篤志面接委員活動について、加古川学園所属の潮崎委員からは、「寄り添う、ということ」と題して、高校時代の恩師で篤志面接委員をされていた方から学んだこと、対象者の心に寄り添う指導の必要性について、奈良少年院所属の脇屋委員からは、「個人面接から見えてくること」と題して、篤志面接委員として 15 年間個人面接を続けて感じたことについて発表があ

った。4名の方がそれぞれの立場から、今現在の活動内容について振り返られており、研修会に参加した篤志面接委員の参考となった。

・ 研修会第2部 パネルディスカッション

パネルディスカッションは初めての試みであり、体験発表をされた4人をパネラー、大阪矯正管区管内篤志面接員協議会大川副会長をファシリテーター、講演をしていただいた一般財団法人ワンネス財団共同代表伊藤氏をゲストコメンテーターとして、「これからの篤志面接委員活動」と題したパネルディスカッションを行った。最初に、来年6月から受刑者の改善更生及び円滑な社会復帰をより重視する拘禁刑が施行されることによって、篤志面接委員活動が変わるのか、変わるとしてどのような面を変えていくべきなのかという点について討論がなされた。次に、変化する矯正の時代では、研修や篤志面接委員同士の情報交換がますます重要となるとして、研修や情報交換を充実させる方策について討論がなされた。最後に、変化する矯正の時代では、様々な分野の担当者や社会との連携が必要不可欠であるとして、矯正施設職員、更生保護関係者、その他社会との連携について討論がなされた。パネリスト、コメンテーターから率直な意見が出され、篤志面接委員は矯正施設職員、教諭師及び更生保護関係者を始めとした、社会との連携、協力が必要であるという、今後の篤志面接委員活動のあり方について一定の方向性を見いだすことができたと思われる。

⑧ 第37回広島矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

本研究協議会の共通テーマとして、「時代に応じた篤志面接委員活動の意義と役割の再発見！！」～これからの社会とのつながりを求めて～を掲げ、再犯防止推進法や、第二次再犯防止推進計画などの再犯防止施策に基づき、国・地方公共団体と共に民間が一体となり、被収容者の改善更生と社会復帰に対して、それぞれの立場に応じた適切な援助を行うことが求められる中、篤志面接委員の使命が極めて重要であることを再確認した。

研究発表では、各講師の現在にいたるまでの活動や経験、各種事例に基づく知見を拝聴することができ、被収容者の社会復帰後の生活を踏まえた助言指導などの活動状況を示していただき、篤志面接委員活動の役割、同活動の方向性と意義などを十分に研究・討議いただいた。

また、基調講演においては、講師から「組織を生かすため」の対人関係、対話術、育成方法、助言の在り方など、球団の監督という立場から得られた経験を具体的に示していただき、篤志面接委員の各種質問にも分かりやすく回答・説明いただき、「人」と「組織」を繋げ、より良い結果をもたらす術を理解することができた。

被収容者への援助のあり方、現代における充実した指導や助言の再確認など、現代における篤志面接委員活動の意義・役割、被収容者と社会のつながりを意識した同活動の研究に有意義な協議会であった。大会共通テーマである「時代に応じた篤志面接活動の意義と役割の再発見！！～これからの社会とのつながりを求めて～」に基づき、広島矯正管区篤志面接委員協議会に所属する篤志面接委員が一堂に会し、研究協議の促進を図り、更に相互の親睦を図ることを目的とし、篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができ有意義な協議会であった。

⑨ 第63回高松矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

本協議会テーマ「時代に応じた篤志面接活動の意義と役割の再発見！！～これからの社会とのつながりを求めて～」に則り、川上裕氏による講演を始め、各施設委員による研究発表等の機会を通じ、篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深めることができ、有意義な研究協議会であった。

⑩ 令和6年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会宮崎大会

宮崎で行われた本大会は平成28年度以来8年振りの開催となった。令和7年6月1日からの拘禁刑の施行を見据え、現在、全国の刑事施設において、その運用について様々な試行を行っているところ、今後、拘禁刑制度への円滑な移行のためには、受刑者との対話の必要性という点においても、篤志面接委員の役割の重要性が更に高まっている。このような現状を踏まえ、本大会では、6つの分科会に分かれ、初日については、これまでの篤志面接活動を振り返っていただくため、共通テーマとして「今までの人生における成功や失敗を通しての学びや気づき」を、また、二日目については、対話を行う上での心構え等に重点を置いた討議を行っていただくため、記5(2)イに掲げる選択テーマを設定したところ、いずれの分科会においても、活発な意見交換がなされ、分科会終了後は、内容豊かな発表が行われた。

また、記念講演は、「安井息軒の受刑者更生観について」をテーマとした内容で、宮崎の偉人の更生観に関する知見を深めるとともに、現在の受刑者処遇についても考えさせられる内容であった。総じて、本大会は、篤志面接委員の指導技能の向上や見識を深められた有意義な研究大会であったと言える。

3 実施写真

① 第37回全国篤志面接委員大会

(1/2)

会場入口



基調講演





研修全景



② 令和6年度篤志面接委員初任者・リフレッシュ研修会

(1/2)

会場入口



会場全景



講話V



班別討議



③ 第36回札幌矯正管区管内篤志面接委員研修帯広大会
会場入口

(1/2)



会場全景



講演



研究発表（刑事施設の部）



研修全景



④第66回仙台矯正管区管内篤志面接委員研修宮城大会

(1/2)

会場入口



会場全景



講演



分科会



⑤第66回東京矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

(1/2)

会場入口



講演



会場全景



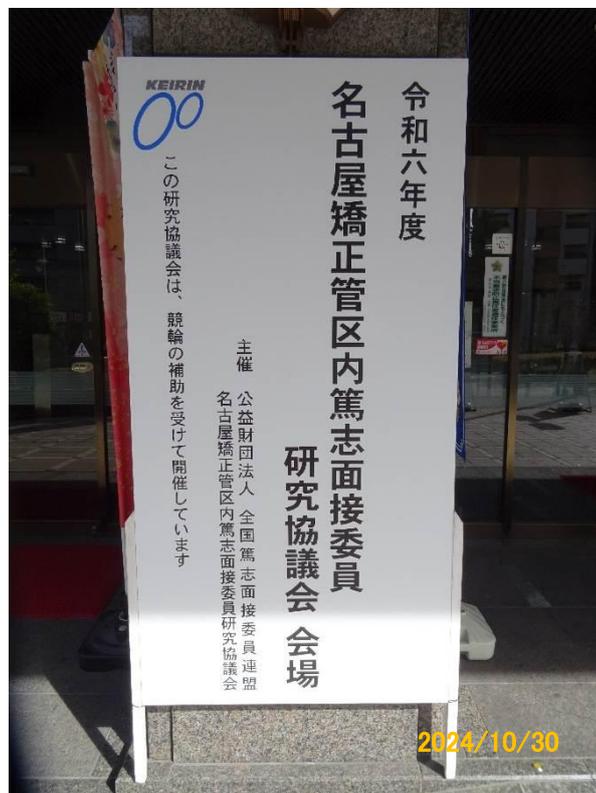
自由討論会



⑥令和6年名古屋矯正管区内篤志面接委員研究協議会

(1/2)

会場入口



講演



意見発表



⑦令和6年大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会

(1/2)

会場入口



講演



体験発表（刑事施設）



パネルディスカッション



⑧第37回広島矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

会場入口



講演



会場全景



⑨第63回高松矯正管区管内篤志面接委員研究協議会

(1/2)

会場入口



講演



研究発表



⑩令和6年度福岡矯正管区管内篤志面接研究会宮崎大会

(1/2)

会場入口



分科会



講演



研修全景

